

# 発掘現場から⑫

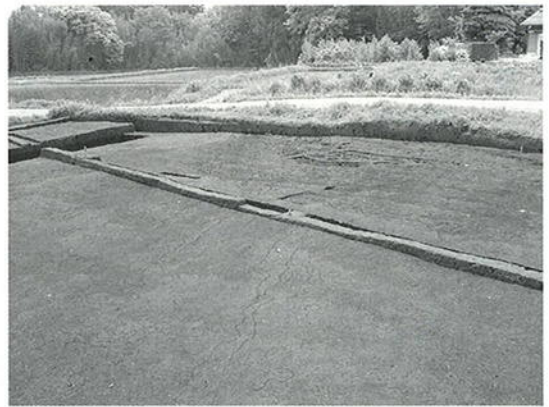
## 茶畑六反田遺跡の調査から

「畠？畑？はたけ？」

今日は、4月から調査を行っている茶畑六反田遺跡の発掘調査について紹介します。

今年度の茶畑六反田遺跡の発掘は、昨年度調査を行った地区の隣接地を継続して調査しています。昨年度の調査では、弥生時代（約2000年前）から江戸時代（約150年前）までの長期間にわたる、昔の人たちの生活の営みが、長方形に並ぶ掘立柱建物の柱穴や、柵の跡と思われる直線状に並んだ穴、昔の道の痕跡と考えられている波板状の凸凹として、地面に残されていました。

そして、もっとも多く確認されたものが、2月号でも紹介しました、畠を耕した際、



調査前の耕作の跡



耕作の跡

畝間<sup>うねま</sup>など他の部分よりも深く地面を掘った跡です。これは平行する幾条もの浅く、細い溝として見つかりました。

4月から6月までの調査でも、非常に多くの畝の耕作跡を確認しました。これらは平行する幾条もの溝に南北方向にのびるもの、南北方向から少し西に振るもの、東西方向のものなどあることから、幾時期かにわたる耕作があったと思われる。

ちなみに考古学の用語では、一般的に使用される「畑」はあまり用いず、「畠」や「は

たけ」を用います。これは「畑」が火偏であることからわかるように、本来は焼畑に使われた漢字だからです。これに対し「畠」は、水田に對する意味の「白田」が合わさってできた漢字といわれています。つまり、耕されてきた「はたけ」が「畠」というわけです。

今年度の発掘調査も中盤に差し掛かりました。今後、さらに古い時代の人たちの生活の営みと関連した跡が見つかることが予想されます。

鳥取県埋蔵文化財センター名和調査事務所  
〒689-3205 西伯郡大山町西坪字中松堀 179-5  
電話 0859-54-2671

## 町職員異動のお知らせ

(6月1日付)

福祉保健課

主幹 瀬尾 香代子

(大山支所 まちづくり推進課から異動)

人権推進課

主幹 高虫 裕幸  
(水道課から異動)

大山町立図書館館長

船原 文野 (嘱託)